

～COVID-19 の院内感染を起こした職員の症状および半年後の後遺症の現状

に関する臨床および聞き取りデータの研究利用に関するお願い～

新型コロナウイルス感染症は 2019 年末より世界的な流行をみせています。

現在までに、国立国際医療研究センターで入院患者さんを対象として後遺症の検討が行われ、疲労、呼吸障害、嗅覚味覚障害、皮疹、脱毛などの頻度が高いことが報告されています。

横浜市西部病院でも院内感染が起こり、43 名の職員が PCR 陽性、8 名の職員が PCR 陰性であるが CT で新型コロナウイルス感染症として典型的な肺炎像を示しました。さらに PCR 陰性または測定が行われず抗体のみ陽性であった職員が 15 名いました。この 66 名の職員を感染者と判断し、初発症状および 10 月 31 日までの後遺症について、健康管理部で診察、検査および聞き取りを行った症状を基に検討したいと思います。比較的基礎疾患の少ない職員と国立国際医療研究センターで行われた患者さんの後遺障害について比較し、違いがあるかどうかを検討することを目的としています。

これらは、カルテに記載している臨床データと聞き取りの記録をもとにするため、新たな負担はありません。また個人を特定できるような状態でデータを使用公表することはありません。

本研究の目的と、臨床データ、記録の利用に関するご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。また本研究に関するさらなる説明をご希望の方、また、本研究において記録の利用を希望されない方は下記問い合わせ先にご連絡ください。

聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院健康管理部

部長 駒瀬 裕子

〒241-0811 横浜市旭区矢指町 1197-1

TEL:045-366-1111 FAX:045-366-8503